

て、戦争をやっているから食べ物があま
りないということが、わからなかったの
だと思いました。

そのうちに、ゆみ子のお父さんは戦争
に行きました。そして、それっきり帰っ
てきませんでした。

わたしと比べると、ゆみ子はいそいそ
うだと思いました。食べ物のお父さん、お
父さんのことも……

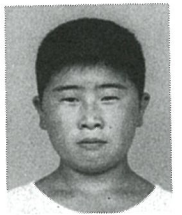
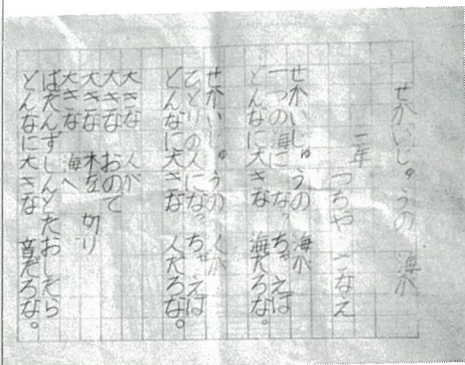
わたしのおじいちゃんも、戦争に行っ
たけれど、どこかの小屋で、こわれた飛
行機の修理をしていたから助かりました。

戦争で、何十万人の人が死んでいっ
たそうです。広島や長崎でげんばくの光
をあびたので死んでいく人が今でもい
るとおじいちゃんが言っていました。ゆみ
子は、げんばくの光はあびていないので、
今もきつと元気だろうと思います。

わたしは、戦争は、二度とおきてほし
くないと思いました。



2年 つちや さなえ



5年 鈴木 宏見



6年 関口 晴代



少年少女つどい大会

飯盒炊飯 うまくいったよ!

八月一日、二日と一泊二日で第十二回

光町少年少女つどい大会が町民会館で行
なわれました。町内各小学校から集まっ
た六年生八〇人は、飯盒炊飯やレクリエー
ションゲームなどを楽しみながら、友達
の輪を広げていました。

つどい大会が終わって、感想文を書い
てもらいましたので、その中の一つを紹介
します。

つどい大会に参加して

日吉小 大木由紀子

わたしは、つどい大会に参加して楽し
かったです。ほかの小学校の人達がたく
さん来ていて、はじめは、いやな気がし
ましたが、たくさんさんの友達ができ、なか
には、いつでも気軽に話せるような友達
ができました。

はじめにやった飯盒炊飯や、友達といっ
しょに楽しくおどったり、走ったりした
ゲームが心に残りました。ゲームでは楽
しいほかに、うれしかったです。それは、
わたしたちの班が三位になったからです。
小学校生活最後の夏休みの良い思い出に
なりました。

二日目には、一番最初に友達になった
人がようじがあつて帰ってしまった時に
は「やだな」と思ったけれど勇気をだし
て、ほかの人に声をかけると、すぐ友達
になれました。どんなしらない人でも
すぐ友達になれる方法を知ることができ

ました。

ちよつとこまったことは、おふろの時
間が短かすぎて、洗っている時間はあつ
たんだけれども、ゆつくりとあたたまっ
ている時間がなかったです。

チームごとになってゲームをやった時
人は、いっしょうけんめいになってやっ
ていたのに、ほかの人達は、負けるとい
やなので、「なにやっつんだよ」などと、
きつい言葉を言っている人がいたので、
言われている人がかわいそうな気がした
ので、そんなことがないようにしたいと
思いました。

一晩とまったので、今まで知らなかつ
た人の良い所を知ることができました。



▲おいしくできるかな……